



## 第4章 森林づくりリーダーの活動を続けるために

市民参加による森林づくり活動は、楽しくなければ

長続きしません。

環境学習プログラムを考える、学習の場として考える、

レクリエーションや遊びのメニューを考えるなど

自ら活動を通して学びながら、参加者と一緒になって、

探りながらすすめてみませんか。

継続させるために。

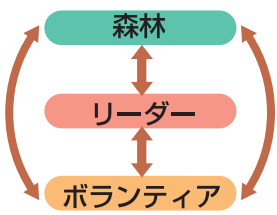
この虫はなんていうんだ？  
何を食べているのかな？  
森林づくりの専門家に聞いて  
みよう。





# 森林づくりリーダーをめざすには

## めざすリーダー像



- ボランティアリーダーは、専門知識のある人の協力を積極的にもらいましょう。
- 森林とボランティアの互いの利益を守るのがリーダーの役目
  - ・森林 → ボランティアの力を貸してもらう。
  - ・ボランティア → 学びの場を与えてもらう。
  - ・リーダー → 学びがあるからボランティアに参加する→森林が解って面白い→そこに楽しみを見つける→またボランティア活動に参加するといった相互にバランスよく与え合うプログラムを作成する。

## 環境学習プログラムづくり

環境学習のプログラムとは、自分達の生活や社会の仕組みを考え直し、人間と社会、人間と自然、との関わりを変革するプロセスにおいて、目標やねらいを設定し、それがかなうように、流れやつながりをもたせた学習活動のことです。

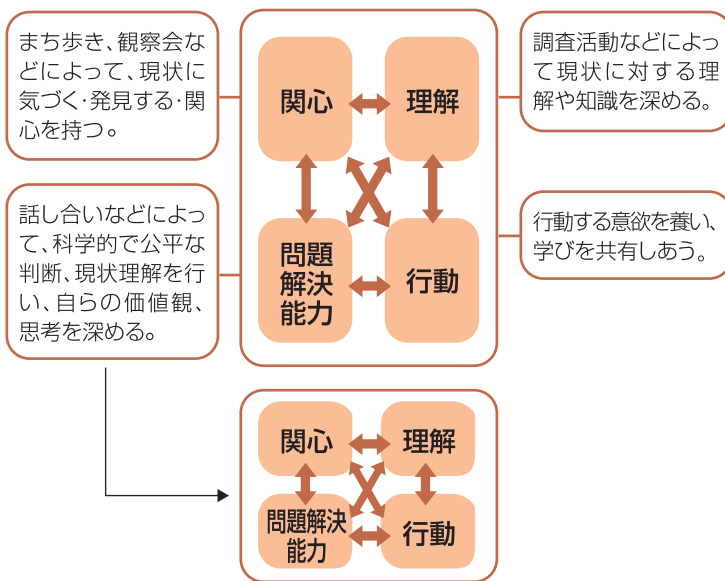
環境学習を実施する「ねらい」「場所」「期間」「対象者」などにあわせて、アクティビティを組み合わせ、学習の展開をデザインすることを環境学習のプログラムデザインといいます。

プログラムデザインを考えるうえで、重要なのは次の点です。

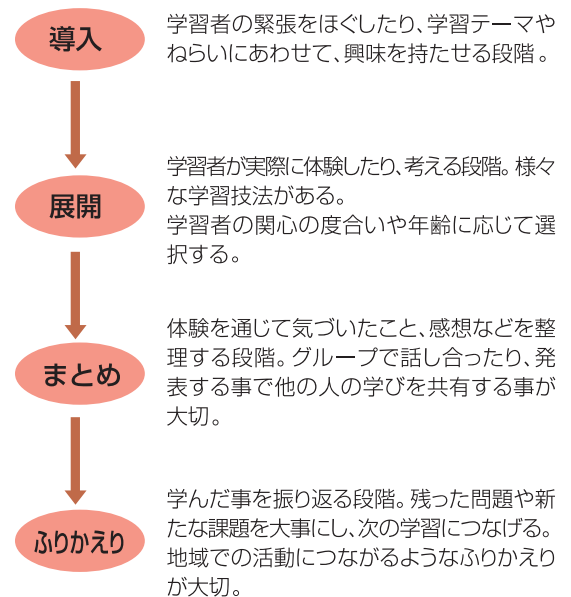
- ①プログラムの目標とねらいは明確であるか。
- ②持続可能な社会の実現に向けた人づくりという環境教育・環境学習の目的の中で、プログラムの目標やねらいが位置づけられ、次のステップへの展開が明確であるか。

## プログラムデザインの一例

### 〈プログラムデザインの大きな流れ〉



### 〈プログラムデザインの短期的な流れ〉



## 森林づくりリーダーの知っておかなければいけないこと

**森林のなかにはいろいろな規制があります。**

普段なにげなくとっている行為でも森林のなかでは、禁止されていることがたくさんありますので事前に知っておく必要があります。また関連する法律について認識しておく必要があります。

森林には所有者・管理者がいます。たとえば、国有林内で活動する場合は、入林許可が必要になります。

→ 森林管理署が窓口になります。

どの森がどのような地域に指定されているかを確認し、それぞれの規制について確認しておきましょう。

**森林のなかにはたくさんの危険があります。**

- ・限られた時間のなかで、活動したいことがたくさんありますが、天候や参加者の体調にあわせ無理のない工程を立てましょう。
- ・野外作業では、蜂・虫などによる被害なども想定できます。対策を十分考えておきましょう。
- ・危険な作業がともなう活動では、ボランティア保険への加入をすすめます。
- ・地域特有のマニュアルを手に入れましょう。
- ・緊急連絡網や緊急体制を把握しておかなければなりません。



## ボランティアの継続性を保つには

### ボランティア活動に参加していただくには

こうすれば参加者が集まるという決定的な方法はありません。だからボランティア活動のリーダー達は、試行錯誤を繰り返しながら、手探りで活動しています。しかし、こんな事をやってみるのも一つの方法です。

- 1) 参加者募集の広報のしかたを考えてみましょう。森林づくり作業の前に、森林の存在を知ってもらい観察会的なものを主にするのもいいでしょう。
- 2) 人が集まるような、魅力のあるイベントを企画します。活動したら「食べる」という企画は、人を集める効果があるように思います。
- 3) 参加する人にはいろいろな人がいます。観察会にしか来ないとか、作業には来ないといった人もいますが、それらの関わりを容認する組織づくりが必要かもしれません。
- 4) 植樹した木を「私の木」にするとか、植樹には実のなる木や花の咲く木を選ぶのもいい方法です。
- 5) 何かの作業をした事を認めてほしいという人には、特典を与える方法もあります。
- 6) たくさんのボランティア団体と交流を深め、参加者をよく集める団体のやり方を勉強するのが一番効果的かもしれません。

### ボランティアの継続性を保つには

市民参加の森林づくり活動は、森林づくりを通して学びながら森林を知り、楽しみを見つけて活動しようという姿勢が基本にあります。自分も楽しく、皆も楽しい活動でなければ継続していけないと思います。

- 1) 一般市民に参加してもらうには、森林に出かけたいという動機づけが必要です。そのためには、具体的な活動課題を明示して、一度森林に来てもらうことが必要となります。活動課題は、次のような森林への期待をテーマにするとよいでしょう。

#### 【学習の場としての森林】

- ・森林は様々なことを教えてくれます。
- ・鳥や虫、植物の自然観察は、年齢を問わずに楽しみながら学べる活動です。

#### 【レクリエーションの場としての森林】

- ・走りまわったり、虫や草花を見たり摘んだりという、都会ではできない自然とのふれあいの場となります。
- ・森林の中で弁当を食べたり自然の遊具で遊んだり、小さな子ども達を連れて出かけたいという欲求を持っている人達にとって、森林は手頃な娯楽場となります。

#### 【景観を楽しむ場としての森林】

- ・最近では、「森林浴」という言葉も定着しており、自然豊かな森林内を散策することで、リフレッシュ効果や精神的な落ち着きを得ることができます。
- ・森林づくりに参加しようという人達には、自然への強い欲求があるので、日頃自然と触れ合う機会が少ない人、環境問題やボランティア活動に対する意識が高い人などが参加すると思います。

- 2) 「楽しむ」課題と一緒に、下草刈りや植樹といった具体的な森林づくりという作業から森林に興味と関心を持ってもらい、森林づくりは面白いという楽しみを見出してもらいましょう。
- 3) こうして森林という場所を提供し、学び楽しむという課題があり、森林づくりという作業が参加者の意識とかみ合えば、モチベーションは上がると思います。
- 4) イベントの際には、自分なりの森林の現状と未来のイメージについて、語れるようにしておきましょう。但し、自分の考えを押し付けるような内容には、ならないようにすべきです。イベントが終了したらアンケートを取るといいでしょう。森林を歩いて楽しただけでなく、次回のイベントにも活動の輪に入ってもらいましょう。
- 5) 「楽しむ」ことを第一義に考えましょう。まず「楽しむ」ことで森林との接点を持つ姿勢が大切だと思います。特に子ども達や、若い世代の参加者には、活動の継続につながると思います。